

実施計画事業評価調査

評価対象年度	30年度
--------	------

事業コード	11200301	事業名称	在宅歯科診療事業	事業区分	通常事業
担当	保健部	保健総務課	問い合わせ先	258-1110(#72-2687)	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 61 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	I 全ての人にやさしい“生涯安心なまち” - 1 健康を育むまちづくり - ② 医療体制の充実
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	川口歯科医師会	日曜・祝日に歯科の初期救急医療を必要とする市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	日曜・祝日の救急歯科患者に対応するため。	<ul style="list-style-type: none"> 休日等における歯科初期救急医療体制の確保 休日等における歯科初期救急医療体制の周知活動 		
30年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> 市歯科医師会所属協力医療機関により実施した。 日曜・祝日・休日・年末年始の9時から17時まで診療業務を実施した。 1日2医療機関体制で実施した。 	項目	実績	単位
		診療日数	73	日
		歯科医師会所属協力医療機関数	146	件
事業の成果 【定性的評価】	歯科医師会の協力を得て、受診できる医療体制を整備、確保することにより、市民の初期救急医療ニーズに対応することができた。また、市広報誌裏面に「救急診療当番医」の当番表として固定掲載したことが、市民の意識に定着し安心につながっている。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	01項	01目	002細目	02細々目	在宅歯科診療事業	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
予算額(A)	10,929	10,929	11,032	12,289	12,289			
決算額(B)=(C)+(D)	10,929	10,784	11,001					
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0			
	一般財源(D)	10,929	10,784	11,001	12,289			
概算人件費(E)	1,476	1,404	1,422	1,422	1,422			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.18	0.00	0.18	0.00	0.18	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	12,405	12,188	12,423	13,711	13,711			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	どちらともいえない	9 /15	有効性	期待どりの成果	期待以下	9 /15
	市関与の必要性	どちらともいえない			施策(上位目的)への貢献	どちらともいえない	
	将来的な市民ニーズ	どちらともいえない			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	9 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行わなかった			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
40 /60	日曜に診療を行っている歯科診療所も増えており、ニーズは低くなりつつある。しかし、祝日は診療をしている歯科診療所は少なく、高いニーズがあると考えられる。今後は、市民ニーズに対応した適正な救急歯科医療体制の整備を図れるよう、必要に応じて体制の見直し等を川口歯科医師会と協議していく。	元年度 現状維持で実施 2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施

事業コード	11200301	事業名	在宅歯科診療事業
部会名	第二部会	担当課	保健総務課

【評価の観点及び判定】

・各観点について一定の基準に基づき判定しています。

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	3	2	2	3	2	4 適正	適正な事業運営がなされている
B委員	3	2	2	2	2	3 概ね適正	工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	2	2	2	2	2	2 改善の必要あり	概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	4	4	2	4	3	1 抜本的見直し	抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	3	3	3	3	3		
部会全体	3	2	2	3	2		

【評価結果(委員)】

- ・部会員からの評価(意見・アドバイス等)は、以下のとおりです。
- ・評価の観点ごとにコメントを並べて掲載しております。
- ・複数の部会員から同様のコメントを頂いた場合は、集約をせずに掲載しております。

No.	I. 評価の観点	II. 評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	日曜日以外の祝日はまだある程度需要があり、子育て世帯などを中心に、必要性が認められる。
2	①趣旨・目的及び達成手段	休日の歯科診療はまだまだ必要だと思う。
3	①趣旨・目的及び達成手段	日曜、祝日に開院する歯科医院が増加傾向の中、歯科医師会任せとなっている現在の輪番制は、担当課で地域差も鑑み、確認すべきと考える。
4	①趣旨・目的及び達成手段	子育て世帯からの必要性はかなり高いと思われる。
5	②事業の効果	一定程度の効果はあるが、日曜日の1医療機関あたりの患者数の2.4人は少なすぎる。
6	②事業の効果	祝日や年末年始を踏まえると、一定程度の効果はあると考えられる。
7	②事業の効果	急患時の安心感がある。
8	③事業の効率化	休日開業している歯科医院も増えており、実情を踏まえた上で、事業のスリム化を図る時期にきている。

No.	Ⅰ. 評価の観点	Ⅱ. 評価コメント
9	③事業の効率化	年末年始や祝日の休日診療において、通常の休日よりは、効率的な運用ができていないため、日曜診療をどうするかを検討することを含め、改善の必要はある。
10	③事業の効率化	休日診療の歯科医院も増加していることを考慮したほうがよい。
11	④課題解決への取り組み	「日曜日廃止」「日曜日1医療機関体制」などのシミュレーションができていないため、実現に向けてプロセスを進めるべきである。
12	④課題解決への取り組み	実情をよく把握し、改善方策を考えつつあると思う。
13	⑤今後の事業の方向性	必要度合いを考えて、長期的視野に立ち、数字を根拠として、縮小に向けての展望を描く必要がある。また、外国人対応についても、数が増えているため、対応を考える必要がある。
14	⑤今後の事業の方向性	現状では休日対応は必要と思うが、その内容については、年末年始・大型連休と通常の休日における必要度合いを考慮して、改善の余地がある。
15	⑤今後の事業の方向性	日曜・祝日型と大型連休型を分けて再検討すべきと考える。
16	⑤今後の事業の方向性	増加傾向にある外国人居住者への対応をどうするかということも考える必要がある。
17	⑥事業全体を通した総合的な評価	現在の歯科医師会任せの輪番制では実態が見えないため、日曜祝日に開院している医院の地域差等も含め、検証が必要と考える。
18	⑥事業全体を通した総合的な評価	休日診療は必要だと思うが、歯科医師の多いところ、少ないところ等、地域差や需要頻度の高い日程等も含めて改善する必要がある。
19	⑥事業全体を通した総合的な評価	日曜日に営業している歯科医院のエリアマップを作成し、プロットすることで、効率の良い当番医の配置ができるのではないかと考える。
20	⑥事業全体を通した総合的な評価	『広報かわぐち』の最終頁にある休日診療医院の頁を切り取り、冷蔵庫に貼る市民も多いと聞くため、必要性はかなり高いと思う。
21	⑥事業全体を通した総合的な評価	休日に歯科医院を利用する場合はどのような時かを考えた際に、緊急時に利用するならば、歯科医院ではなく、口腔外科に行くと思われる。日曜日に歯科医院が必要となる理由が不明である。日曜日に開業している歯科医院があれば、開業している医院に行くのではないかと考えるのではないかと考える。

【評価結果(第二部会)】

・部会員からの評価(意見・アドバイス等)を受け、部会としての評価結果を以下にまとめました。

評価コメント

- ・「趣旨・目的及び達成手段」について、日曜日以外の祝日については、まだある程度需要があると考ええる。特に子育て世帯等を中心に必要性は認められると考える。
- ・「事業の効果」については、一定程度の効果があると思われるが、日曜日の1医療機関あたりの患者数が2.4人とかなり少なく、大型連休における患者数とかなり相違があるため、事業の性質が違うと思われる。そのことを考慮し、より有効性を高める必要がある。
- ・「事業の効率化」については、休日診療を行っている歯科医院も増えているため、実情を踏まえた上で、事業のスリム化を図る時期に来ていると思われる。
- ・「課題解決への取り組み」については、「日曜日廃止」「日曜日1医療機関体制」などのシミュレーションによる具体的な数字は出てきているため、歯科医師会と連携しながら、実現に向けたプロセスを進めるべきではないか。
- ・「今後の事業の方向性」としては、都度、必要度合いを考え、長期的な視野に立って、数字を根拠として、他自治体との歯科医院／人口数との比較やトレンド等を踏まえた上で、縮小等に向けた展望を描くことが必要である。
- ・外国人が増えているため、歯科診療における外国人対応についても準備しておく必要があるのではないか。
- ・地域差がどのような形で考慮されているかが気になった。歯科医師会との信頼関係で成り立っていると思うが、検証を行うべきではないか。